

## 2020年度 マンスリーレポート No. 61

4月1日、行動科学の授業(116コマ)について、昨日の臨時教授会議の決定事項に沿い、安達(統括責任者)が25の担当講座/部署に授業形態や授業時間の変更への対応を依頼し、学外講師の授業と医学科看護学科合同授業の一律中止を通知した。

4月3日、文科省の休校指針の改訂(4月1日)に伴い、福岡県内の小中高校の再開延期が決まり、県内の感染者が100人を超えて感染拡大警戒地域と見なされる状況を考慮して、久留米大学では学生の出校を停止することにした(期間は4月6日~17日の予定)。講義は録音と録画を行いながら、オンデマンドでネット配信(Web)、資料(PDF)は事前にMoodleにアップロード、試験問題と質疑応答で双方向フィードバックを行い、基礎系実習も音声や短い動画を配信するが、臨床実習は開始を延期した(再開は5月11日の予定)。機器や環境が原因でネット配信を受講できない学生のために、教員は通常どおり教室で講義を行う。なお、機器の整備、配信の作業、文書の作成には、すべて柏木が教務課の職員と行った。

4月4日、新学期が始まり、第2学年~第4学年のネット授業がスタートした。安達が「行動科学Ⅲ/Ⅳ」で録音と録画を行い、動画配信のデモに提供した。

4月7日、安倍首相が緊急事態宣言(福岡県を含む7都府県、5月6日まで)で外出自粛(人と人の接触7~8割削減)を求め、小川知事が外出自粛(平日昼間も)とイベント開催自粛を求め、新入生オリエンテーション(4月8日~9日に短縮)が中止になった。

4月8日、教授会議がスクール形式で開催され、講義/実習/試験に関する通知があり、大学病院と医療センターのCOVID-19感染者受入れ態勢について審議された。

4月9日、医学科・看護学科・臨検校のネット授業を整備するため、「新型コロナ対策教育支援室」(チームK)が、柏木をリーダーに7人体制で設置された。新入生オリエンテーションの録画があり、安達が「大学での勉強」、山田が「大学での生活」を担当した。安達が共用試験 CBT 問題ブラッシュアップ(第2回)に参加した。

4月10日、理事長が所属長の判断で職員は時短勤務や時差出勤ができることを通知し、医学部長がWeb講義における学生の評価は科目責任者が行い、科目試験は延期することを通知した。柏木がネット授業の動画配信の解像度・受信能・実現性などをテストした。

4月13日、病院長が食堂や売店における職員間の濃厚接触回避を通知した。チームKが実働し、Moodleの動画アップロードが組織化された。

4月14日、動画配信に関する注意とマニュアルが送付され、翌日配信のオンデマンド(ライブではない)、Zoom配信の禁止(回線を圧迫)、ファイルサイズの低減(画像の圧縮)を教員に周知した(テレワークやメッセージ斉配信システムの構築も同時進行中である)。教育主任会議が開催され、新型コロナウイルス感染拡大への対応に関する資料(4月3日~14日、18ページ)が配布され、教務委員長が情報共有と教職員の周知を依頼した。県知事による大学の休業要請(4月13日)を受け、理事長/学長名の通知「教員は教育研究上必要がある場合はキャンパスへの入構を認める」「職員は所属長の判断で最小限の機能を維持できる数に限定した勤務体制とする」が配信された。

4月15日、オンライン配信の急速拡大によるアクセス障害に対応するため電子シラバスのネット回線独立化が必要になり、朝8時から柏木が回線切り替え作業を行った。

4月16日、理事長/学長名の注意喚起「新型コロナウイルス感染拡大防止策の取組みの徹底」が配信され、「教員は教育研究上必要がある場合はキャンパスへの入構を認めるが必要最小限とする」を受け、安達と山田がテレワーク(在宅勤務)を行った。元教務課職員の秋山晴美さん(3月末退職)がチームKに加わり、教育センター勤務となった。

4月17日、オンライン授業のテレワーク(在宅講義)を支援するため、柏木がマニュアル「2020 テレワーク(在宅講義)」を作成し、教務課が教授と教育主任に配信した。

4月20日、看護学科(Moodleを新規導入)でオンライン授業が始まり、柏木がテレワーク(在宅勤務)で電話とメールに朝から夜まで対応した。大学病院で病院職員の正面玄関利用と宅配業者利用が禁止され、片山がトレセンの使用制限について検討した。大学に教職員や学生のメールによる相談窓口「新型コロナ関連相談室」が設置された。

4月21日、ユニットの会(日本医学教育学会)で議論されているオンライン授業の問題について、柏木が通信制限(帯域や容量)に対する録音録画・圧縮形式・オフデマンド方式の具体的な方法をわかりやすくアドバイスした。安達の書評「新しい時代の医学生のための教科書」が医学書院のHP書籍詳細『新臨床内科学 第10版 ポケット版』に掲載された。

4月22日、在宅勤務の増加に伴うオンライン授業の多様化について、柏木が対応した。大学病院が高度医療を維持するため、災害レベルをⅡからⅢ(最高レベル)に引き上げた。

4月23日、御井学舎の授業が2週間遅れで始まり、安達が「健康行動論」のオンライン授業に講義資料を提出した。大学病院がコロナ診療グループと院外施設の準備を始めた。大学病院でガウンが不足しており、トレセンのOSCE用備蓄ガウン(50着)を供出した。

4月25日(土)~26日(日)、Moodleに不具合が生じ、医学生や看護学生から問い合わせが相次いだ。柏木が奔走して対応したが、ホストサーバーの不調であることが判明した。

4月27日、教務課が教職員と学生にMoodle運用の停止を通知した。チームKがホストサーバーの復旧を業者(〇〇〇)に依頼し、修復作業(短期的な応急処置)を開始した。

4月28日、業者が作業中にデータを喪失し、4週間分の教務データが消失した。同時にバックアップシステムの異常(内部サーバーに差分を蓄積して容量オーバー)も判明した。教務課が現状を説明し、授業担当者(4月6日~4月30日)に講義資料の提出を依頼した。トレセンにおける研修医の実技トレーニングについて、山田と片山が救命救急センターの医局長・指導医と協議した。

4月30日、業者によるホストサーバーの復旧作業が遅々として進まない中、オンライン授業(医学科/看護学科/臨検校)の修復作業を、チームKが休日返上で黙々と続けている。日本ウイルス学会学術集会(10月開催)がCOVID-19の状況を踏まえて1年延期になった。

\*クリニカルスキル・トレーニングセンターで開催されたイベントは次のとおり。

4月1日、採血・バイタル確認 実習 0JT (病棟看護師)

4月2日、採血・筋肉注射 実習 0JT (病棟看護師)

4月2日、導尿実習 0JT (病棟看護師)

4月3日、臨床研修医オリエンテーション (臨床研修センター)

4月6日、導尿実習 0JT (病棟看護師)

4月7日、筋肉注射・導尿実習 0JT (病棟看護師)

4月8日、導尿実習 0JT (病棟看護師)

4月8日、ロボット支援下手術シミュレータトレーニング (外科医師)

4月8日、一次救命処置講習会 (救急蘇生小委員会)

4月14日、VR内視鏡トレーニング (消化器内科医師、臨床研修医)

4月14日、採血・筋肉注射・導尿 実習 0JT (病棟看護師)

4月15日、導尿実習 0JT (病棟看護師)

4月15日、VR内視鏡トレーニング (臨床研修医)

4月16日、採血・筋肉注射 実習 0JT (病棟看護師)

4月16日、VR内視鏡、エコー検査トレーニング (臨床研修医)

4月18日、ロボット支援下手術シミュレータトレーニング（外科医師）

4月20日、採血・筋肉注射 実習 OJT（病棟看護師）

4月24日、血管確保 実習 OJT：20 病棟（看護部）

4月24日、筋肉注射 実習 OJT（病棟看護師）

文責：安達洋祐